えりも町の取組

中核校：えりも町立えりも中学校
指定校：えりも町立笛舞小学校、えりも町立えりも小学校、えりも町立えりも岬小学校、えりも町立庶野小学校

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校改善

取組　(3) 学習指導の充実　(4) 教員の資質・能力の向上

1 個別最適な学びと協働的な学びの実現し、日常実践に直結する校内研修（研究主題：「学びの場をデザインする」ファシリテーターを意識した授業づくり）の促進

(1)校内研修の工夫

①外部講師による理論学習・授業分析の実施（北海道教育大学大学院　准教授）

②生徒の学びに寄り添った指導案検討（学びが成立するか、どこでどのような躓きが起こりそうか等）

③授業研究の工夫　ア 外部講師（指導主事等）のよるアドバイス　イ 町内小学校・高校への参加要請
ウ 生徒の学びの様子を話し合う研究協議の実施

④授業動画視聴による学び（振り返り）

2 加配教員による巡回指導での各小学校の様子の共有と提案（右下動画参照）

(1)授業中の大切にしたい子どもの姿、各学校の工夫、共通の取組、学力に対する各学校の工夫、タブレット使用の状況等を共有

(2)小から中への進学時のギャップを少なくするための提案

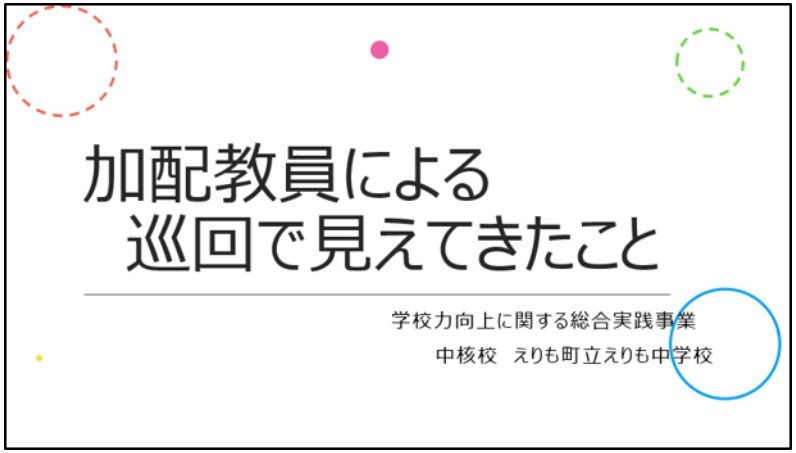
成果

○中核校の授業研究を各指定校が参観したことにより、どのような授業を目指しているかを共有することができた。

○外部講師による授業分析により、教師がファシリテーターとしてどのように子どもと関わるのかを意識するようになり、町内の教員で共有できた。

○中学校巡回教員から、中学校へ円滑な接続に向け、次年度の取組について提案ができた。

○全学校の管理職で巡回教員の育成を行ったことにより、巡回教員の資質向上が図られた。



↑クリックすると説明動画を視聴できます

質の高い教育活動を持続的に行う働き方改革の実施

取組　(3) 業務の効率化に向けた取組の充実

１　コアチームでの定期的な協議
(1) 加配事務職員をコアチームのリーダーに位置付け、会議を定例化した。
(2) 実現できないかもしれないことも話題にする（高校の教員だけでの部活動実施、コロナ対応の簡素化等）
(3) 途中からでもやってみる姿勢
２　ＩＣＴ活用の促進
(1) 教職員用グループウェア「ミライム」による情報共有（職員動向、行事、簡単な連絡）、掲示板による　周知・集約・より機密性の高い情報共有、メッセージによる特定の職員とのやりとり（データの行き来のあるもの、町内小中学校教員の連絡用(メールの代わり)として活用)
(2) 各種会議のペーパーレス化
(3) Googleフォーム活用による各種アンケート、参加集約作業の軽減、生徒欠席・遅刻の連絡
(4) 欠席者への授業配信並びにタブレットや書画カメラを利用した授業の効率化
(5) メール配信による学校情報の発信

【遅刻・欠席連絡の表示】

成果

(1) 意識化が進み、昨年度より平均超勤時間が減り、時間外在校等時間が45時間以下の職員の割合が高まった。
(2) コアチームで協議を行う中で意見を出し合い、日課の工夫による会議時間の確保や出席簿のデータ化、職員の出退勤記録方法の簡易化（タッチパネル）を実現することができた。
(3) 職員の意識が変化し、コアチームにすべて任せるのではなく主体的に関わろうという風土が生まれた。

【出退勤のタッチパネル】